

## 厚生文教常任委員会委員と風連地区福祉団体との意見交換会報告書

1 参加議員 厚生文教常任委員会  
委員長 高橋 伸典、副委員長 今村 芳彦  
委員 東 千春、高野 美枝子、倉澤 宏、谷 聡

2 参加団体 民生委員、民生委員推薦会委員、高齢者事業団、  
小規模多機能型居宅介護施設、高齢者向け介護施設

3 参加団体からの現状報告、意見、課題など

### (1)高齢者事業団

- ・ 組織が設立され 30 年経過し、高齢者の生きがいと働ける場所を見つけるため、掃除活動や公園の草刈り、道の駅の管理、除雪など危険作業や事故につながる作業以外手広く請け負っている。
- ・ 会員は 60 人程度。最高齢は 87 歳、平均では約 70 歳となる。
- ・ 働く目的は様々。健康維持を目的とする方もいれば、少しでも生活の足しにしたいという方もいる。今まで築いたキャリアを十分に生かし、健康や生活のために働ける職場があることが重要と思っている。
- ・ 人材不足については、春の田植えの時期に人手不足を感じている。

### (2)介護施設

- ・ 施設には 85 歳から最高齢は 104 才で要介護 3 の方が入居している。
- ・ 介護職員は日本人と外国人がほぼ半数。現在フルにいるため、満床 29 名の対応ができています。
- ・ 入所希望者は申し込みをしても 1 年から 2 年ほど待機をしているのが現状。原因は、職員不足と満床のため空きが出ないこと。
- ・ 訪問介護職員は、1 人の職員で 30 人から 40 人に訪問介護を行っている状態。

### (3)民生委員

- ・ 活動としては独居老人高齢者世帯の見回りを月 1 回、社会福祉協議会とのつながりで訪問している。
- ・ 民生委員の業務が知られてなく、引き受けたら大変であると思われる、なり手がなかなか見つからないのが現状。
- ・ 何が大変かと考えると農村地域は高齢者の方々の顔が見えるが、街中は独居老人の家も人もわからない。町内会は個人情報として個人名も家も教えてくれない。行政、町内会連合会、民生委員、ネットワーク推進委員が連携し高齢者の方々を把握しないと進んでいかないと思われる。
- ・ 高齢者の悩み事があれば、社会福祉協議会や地域包括支援センターにつなげることが民生委員の仕事と考えている。
- ・ 民生委員で見守りが必要な方を 1 人で 40 人を見ている方がいる。負担の平均化を行い、そのような地域は民生委員を増やせないものか？
- ・ 民生委員の不足や欠員を出さない取り組みは、町内会が主体となって民生委員を決めるところが多いと思うが、現役世代で 40 歳から 50 歳の方が入っていただかないと衰退していくと思う。

- ・ 民生委員になってもらうためにどのようなPRがいいのか悩んでいる。
- ・ 民生委員は、高齢者の見守りが仕事。町内会の役員に民生委員になっていただいたり、新しい方々になっていただくことが難しい。できれば女性の方が良いと思う。
- ・ 行政からは町内会に自主防災組織を作り、避難計画を作ってほしいと言われるが、日中は仕事をしている方もいるので、避難計画や避難行動はなかなか難しい。町内会として、防災会議が年1回しかないが年3回は行うべき。
- ・ 市民が災害にあったときに迅速に行動ができる体制を行政としても取ってほしい。
- ・ 介護施設は年2回避難訓練を行っているが、要介護3以上の方がいるので避難の際は車いす避難になり避難体制の構築が大変である。

#### (4)その他

- ・ 介護職は体力的に作業がきつく、年齢を重ねると離職する方が多く出る。人口減少が進む中、報酬を上げたから人が来るのではなく、稼働労働者を地方で優遇することを市として取り組み、人口減少を少しでも遅らせることが必要と感じる。
- ・ 幼児保育の待機児童問題について、待機児童ゼロを目指していると思うが、人口減少と風連も過疎地域になり人材確保が難しく、待機児童ゼロができない状況にある。行政にお伝えいただきたい。

## 4 総括

今回の福祉団体との意見交換会を通し、高齢者事業団・介護事業所・民生委員が慢性的な人材不足を抱える中、なんとか事業を進めている状態が続いていると思われた。また、介護事業所では利用者の待機状態が続き、高齢者の増加にサービスの供給が追いつかない状況が確認された。

民生委員を中心に、増加する独居高齢者の安全と生活の質を確保するため、見守りサービスなどの支援策が展開されていた。

高齢者福祉は、高齢者が健康で安心した生活ができるよう、社会参加の提供を進めている高齢者事業団の活動や取り組みの状況等を把握できた。アンケートの中には参加してよかった、色々な話が聞けて良かった、次回も開催してほしいとの意見があった。

厚生文教常任委員会としては、高齢者や障がい者、一人暮らしでも安心して暮らし続けられる福祉施策の充実や人材育成のまち名寄を目指すため引き続き調査・研究を進めてまいります。